

平成29年度 第1回和光市自立支援協議会 計画策定部会 会議録（要録）

- 1 日時 平成29年7月4日（火） 10時00分～11時15分  
 2 場所 和光市役所5階 502会議室  
 3 出席者 7名

	所属等	委員名
部会長	和光市自立支援協議会委員 （十文字学園女子大学教育担当 副学長）	佐藤 陽
副部会長	国立保健医療科学院 主任研究官	松繁 卓哉
委員	和光市自立支援協議会委員 （和光市心身障害児・者を守る会 副会長）	深野 正美
委員	和光市自立支援協議会委員 （和光市身体障害者福祉会 副会長）	下川 初江
委員	和光市自立支援協議会委員 （和光市社会福祉協議会）	野川 希代子
委員	和光市自立支援協議会委員 （公募委員）	齋藤 順子
委員	和光市自立支援協議会委員 （チャレンジド団体連絡協議会）	高田 奈歩

（事務局）東内保健福祉部長

社会援護課 内田統括主査、三澤主査、濱口主任

地域包括ケア課 阿部課長、飯田統括主査、富澤主事

- 4 傍聴者 4名

1 第五次和光市障害者計画・第5期和光市障害福祉計画の策定について

- ① 国の示す策定指針について
- ② 和光市のチャレンジドの現状について
- ③ 現行計画の重点課題の評価について

事務局説明

資料1 第5期障害福祉計画に係る国の基本指針の見直しについて

資料2 和光市チャレンジドの現状

資料3 平成28年度給付実績

資料4 重点課題の達成状況

【深野委員】給付実績によりグループホームが足りないことはわかっているが、同行援護がまだまだ薄いと思う。グループホームで生活している人が単独で行動

できる保障はない。スタッフがまとめて連れて行くと本人にとっては苦痛に感じる場合もあるので、他の移動手段や一緒に行ってくれる人がいないと生活がまわらないのが現状である。

【下川委員】同行援護の利用実績が17名となっているが、しっかりと周知されているのか。また、私も同行援護を利用しているが、使い勝手が良くない。身体障害者の中には、リハビリを重要視している人もいるが、リハビリ通所は難しく、朝霞市の方へプールに通う人も見受けられる。できれば、市内の近くに通えるプール施設があると良い。

【副部長】基本目標の「チャレンジドが地域や社会の一員として学び働くための支援」の達成状況の中に就労支援移行事業所の開設とあるが、就労だけに限定せず、いろいろな場所での活躍の場を作るという視点で達成としても良いのではないかと。

【野川委員】ニーズ調査とは、平成26、27年度で実施したものか。

【内田統括】平成26～28年度で手帳所持者全員に実施したものである。

【野川委員】ニーズ調査の結果とは別に、障害福祉サービス事業者や障害福祉相談員が普段の業務から必要と感じた意見を述べる機会があると良い。

【 部長 】 ニーズ調査だけでなく、事業者等の現場の意見は貴重なので、計画に反映できるようにしていただきたい。

#### ④ 次期計画策定の方向性について

##### 事務局説明

資料5 和光市第5次障害者計画・第五期障害福祉計画案（概要）

資料6 次期計画策定の方向性について（論点案）

【野川委員】本日示された資料5の計画案は、第四期のものであるが、ここから次期計画に向けて発展させていくのか。

【阿部課長】今後、本日お示しした論点等を踏まえながら基本方針をブラッシュアップしていく。

【野川委員】一つ一つの施策が元をたどれば何のことなのか分かるようになっているので、このような方針を示す体系で進めてほしい。また、地域福祉計画にもあるが、論点の中に「地域住民が障害者を活かす」というような障害者が地域で当たり前で暮らしていくために障害理解を進めていくという視点が入っていると良いのではないかと。

【深野委員】医療型の児童発達支援センターのイメージが湧きにくいので説明してほしい。

【阿部課長】医療型児童発達支援センターは、診療所を併設しており、発達支援が必要かどうかの判別を行うことができる施設であるが、近隣にそういった判別

できる場所がないことを考えると、今後必要ではないかと考えている。

【副部会長】先ほどから、「使い勝手」という一つのキーワードが使われているが、論点の中の共生型サービスについて、単に併設されることが目的化するのではなく、併設して且つ使い勝手が良いということが認識されていることが重要ではないかと思う。

## 2 その他

次回会議について 平成29年10月開催予定。